

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく2

国立市立国立第七小学校

平成26年4月14日 NO.3 (103)



オー君 「あれ?どこかな。おいら見たことあるみたいだけどな。」

花ちゃん 「ひょっとして、国立の城山（じょうやま）ですか。」

モンタ博士「ピンポン。きのうね、1人で城山をてくてくしてきたのさ。とってもよかたよ。国立にはいいところがいっぱいあるね。国立大大大の大好きさ。」

オー君 「え!1人で行っちゃてずるいよ。おいらも行きたかったな。」

花ちゃん 「私も行きたかったな。でも、私たちの国立は、最高（さいこう）ですね。」

モンタ博士「最高の超（ちょう）最高だよ。自分のすんでいるところ、自分の学校をじまんでできる子は、とってもいい子だ。これからも、みんなで国立のすばらしいところをたくさんたくさんさがして、もっともっと好きになろうね。そのために、国立のあちこちをいっぱいてくてくして、わくわくドキドキしようね。」

花ちゃん 「モンタ博士!ヤマザクラもさいていますね。」

オー君 「芽吹（めぶ）きはじめた木は、まるで、緑色（みどりいろ）のともしび火が点々（てんてん）と見えるようですね。」

モンタ博士「なーるほど。『緑色のともし火』か。なかなかいい言葉だね。とてもおもしろい表現（ひょうげん）だね。さすがだね。オー君。」

花ちゃん「なんだか、城山（じょうやま）の雑木林が輝（かがや）いて、笑（わら）っている感（かん）じですね。」

モンタ博士「なーるほど。『笑っている』か。これまたすばらしい表現（ひょうげん）だね。」

オー君「おいらは、この季節（きせつ）が一番（いちばん）好（す）きだな。」

花ちゃん「そうね。冬の間は静（しず）かだねむっているようで、木の幹（みき）ばかりが目だっていたけど、いまは、『いろいろな緑色の世界』ね。」

モンタ博士「え！いま、何て言ったの。」

花ちゃん「いろいろな緑色があるなって、言ったんですが・・・。」

モンタ博士「いろいろな緑色！すばらしい。これまたいい言葉だ。いい表現だ。」

オー君「モンタ博士、何をそんなに興奮（こうふん）しているんですか。」

モンタ博士「いろいろな緑色があるんだよ。そのことに気づくことが大切だ。コナラは少し白っぽい緑色。ミズキやエゴノキはあざやかな緑色。さらに、シデの間はやや赤っぽい緑色だ。つまり・・・。」

花ちゃん「つまり・・・木たちも、それぞれの個性（こせい）を主張（しゅちよう）しているということなんですね。」

モンタ博士「個性を主張している…。これまたいい言葉と表現だ。国立には、自然のステキなところがいっぱいあるから、あちこちでいろいろな緑色を発見しよう。」

「山笑う」という表現は・・・

臥遊録（がゆうろく）

春山澹冶而如笑

夏山蒼翠而如滴

秋山明淨而如粧

冬山慘淡而如睡

（中国漢詩集より）

春山澹冶「たんや」にして

笑うが如「ごと」く

夏山蒼翠「そうすい」にして

滴「したた」るが如く

秋山明淨にして

粧「よそお」うが如く

冬山慘淡として

睡「ねむ」るが如し

とあります。